

研究主題 であう・つながる・うまれるコミュニケーション (第1年次)

1 研究主題について

(1) 主題設定の理由

学習指導要領

「生きる力」の育成

平成8年の学習指導要領で示された「生きる力」の育成は、平成20年に告示された学習指導要領の中でも引き続き重視していくことが述べられている。私たちは、日々の実践の中で基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力を育てていかななくてはならない。

また、学習指導要領の中で述べられている言語活動の充実など改訂のポイントを踏まえた日常の教育活動の充実も図っていく必要がある。

本校児童の実態

* 研究紀要第60集

本校の児童に目を向けると、自分で考え判断しようとする姿勢が十分できていなかったり、追究する意欲や根気強さが継続しなかったり、協同的な学習でのかかわりが薄かったりするという実態があった。

前研究との関連

これらの経緯を踏まえ、私たちは昨年度までの4年間、「知識創造の力を育む授業」を主題とし、主体的に考え、創造的に生きる力の育成を具現化する授業づくりをめざし研究に取り組んできた。そして、個の思考にかかわりが重要な役割を果たしていることを明らかにしてきた。

かかわりは、学びの主体化や相互作用の活性化、学習の高まりを伴いながら学びのプロセスを充実させていくのである。

前研究で日々実践に取り組む中で、子どもの学ぶ意欲が高まり、主体的・共同的に学習に取り組む姿が見られるようになってきた。

しかし、前研究は個に焦点をあてた研究であったため、集団としての学びの高まりについては十分な検証はなされなかった。

かかわりが一人一人の意欲や態度を高め、子どもの力量を高めていくのであれば、そのかかわりをより充実させることによって集団としての学びが高まり、一人一人の力もさらに高まっていくと考えられる。

そこで私たちは、かかわりに焦点を当てさらに集団での学びの中で効果的に取り入れることができれば、より子どもの思考が広がり深まる学習が展開ができると考え研究に取り組むことにした。

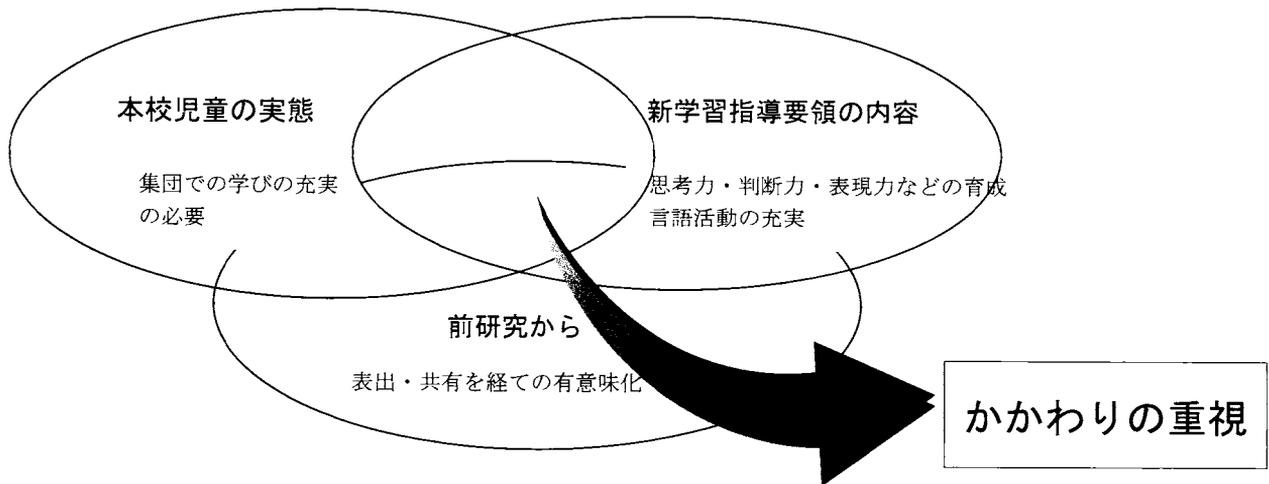
本研究では、かかわりを引き続き重視し、さらに建設的に話し合い聞き合う力をつけていくことで、集団での学びの向上に取り組んでいくことが大切であると考えている。

かかわりの重視

先にも述べたように、子どもの思考を深める手立てとしてかかわりが有効であることは、前研究で明らかにしてきた。つまり、かかわりを手立てとし、子ども自らが思考するよう学習活動を展開していくことができれば、子どもの思

考力・判断力・表現力の力をより効果的に育んでいくことができると考えられる。また、かかわりを通して個の学び思考が広がり深まることで、集団としての学びの質も高まっていくことが期待できるのである。

そこで、私たちはかかわりを重視し、学習活動の中で子ども同士がかかわり合い、思考力・判断力・表現力を育成していく学習活動を模索していくことにした。



資料1 研究主題設定の経緯

(2) めざす子どもの姿

先に述べたように本校児童の実態や前年度までの研究の成果、また新たな学習指導要領で重視されている内容などを動向から、私たちはかかわりを通して自ら力を高めていくための学習活動を模索していくことにした。

かかわりを通して自ら力を高めていく学習活動とは、

- ・問題解決に向けて意欲をもち、見通しをもって活動できる
- ・自分の思いや考えを明確にもち追究する
- ・自分の思いや考えを他に問いかける、あるいは他に考えることができな
いか意見を求めることができる
- ・他の話をもとに自分の思いや考えを見つめ直すことができる

といった他とのかかわりによって自分の思いや考えをよりよいものに更新させていく具体的な姿としてとらえることができる。

そこで私たちは活動中での子どもの姿を以下のようにとらえることにした。

めざす子どもの姿

主体的・協同的に学習に取り組み、獲得した知識をさらに生かしていく力をより高めていく姿

ここでのめざす子どもの姿は、将来的な理想の子どもの姿ではない。日々の学習の中で絶えず実現させていく子どもの様子と考えている。このような子どもの姿の具現するための学習活動を私たちは日々展開していくことによって、子どもの思考力・判断力・表現力を育成していこうと考えているのである。

(3) 研究主題の設定

思考力・判断力・
表現力

私たちが学習活動の中で重視して育てていく力は、思考力・判断力・表現力である。これらの力を具体的に考えると

【思考力】

- ・比較する力・分類する力
- ・関連づけする力・類推する力

【判断力】

- ・目的のもとに種々の情報から適切な情報を選択する力

【表現力】

- ・目的をもとに的確に表す力

ととらえることができる。

*研究紀要第60集

私たちは昨年度までの研究の中で、想起された知識が表出・共有・結合によって新たな理解にいたる営みを知識創造ととらえ、子どもの思考の広まりや深まりに有効な手立てを明らかにしてきた。

子どもの思考力・判断力・表現力は、複数の事実や事象などを比較・分析、選択などすることを通して育まれていく。つまり、比較や選択などを必要としない学習活動の中では、自分の思いや考えを見つめ直す機会が少なく、思考は深まらないと言える。かかわりによって自分とは異なる思いや考えに気づくことで、自分の思いや考えを見つめ直し思考は深まっていくのである。

言語化

私たちは、かかわりの中でも話し合い・聞き合いの活動に焦点をあて、子ども達の具体的なかかわりの活動から子どもの育ちを見ていくことにした。

それは、かかわりが絶えず言語を介したやりとりであるからである。子どもは言語を介したやりとりを通して仲間の思いや考えを知り、自分の思いや考えを見つめ直しよりよいものにしていく。この言語を介したやりとりの連続(経験)が、子どもの思考力・判断力・表現力を育てていくと考えているからである。

言語を介したやりとりは話し合い・聞き合いの活動だけではなく、書くなどの言語活動もある。私たちが考える話し合い・聞き合いの活動とは、話し合い・聞き合い活動そのものだけではなく、話し合い・聞き合いの活動を支える各活動なども含めて考えている。なぜなら学習活動とは一つの活動が単独で構成されているのではなく、様々な活動を通して子どもの様々な能力を育てていくものだからである。

主題の設定

話し合い・聞き合いの活動を通して思考力・判断力・表現力を育てるため、

- ・どのような話し合い・聞き合いの活動が有効であるか
- ・話し合い・聞き合いの活動を通して思考力・判断力・表現力の育ちをどのように判断するか

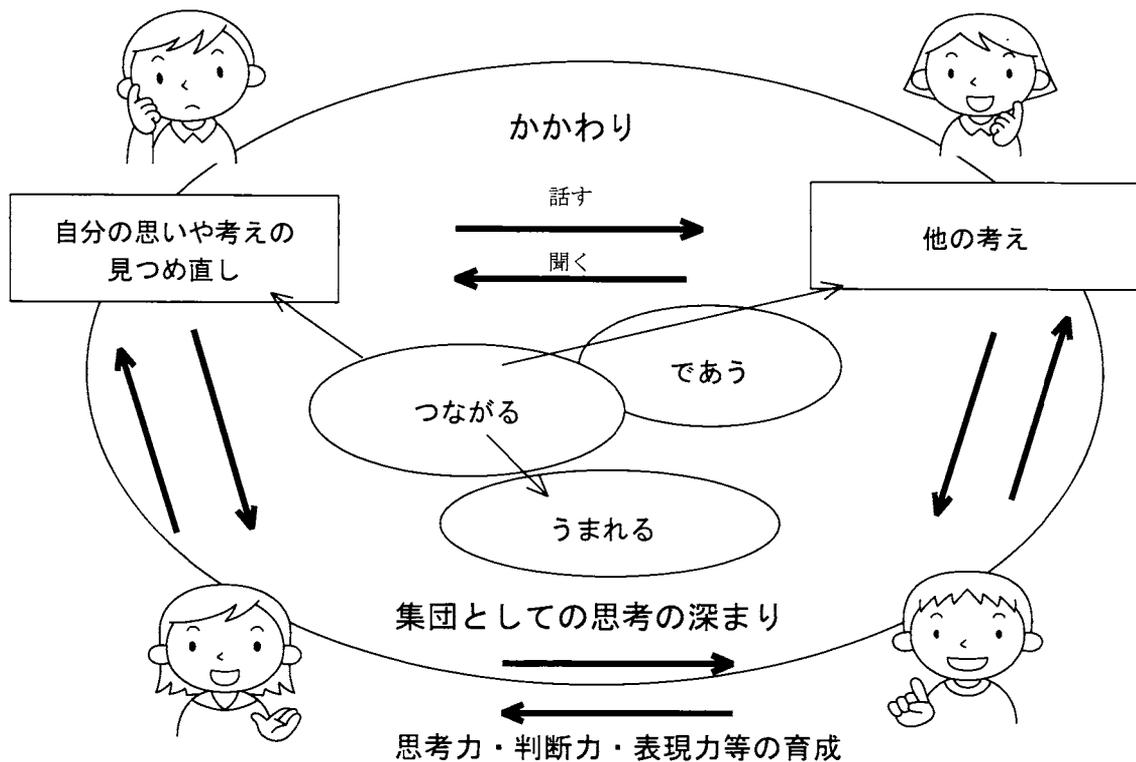
等を明らかにしていくことを研究の対象としてとらえている。そして、主題を次の通りに設定した。

2 である・つながる・うまれる

(1) である・つながる・うまれるコミュニケーションとは

「である・つながる・うまれるコミュニケーション」は、思考力・判断力・表現力を育てる話し合い・聞き合いの活動である。

思考力・判断力・表現力の育成には、子ども自らが考え、仲間とかかわり合いながら新たな理解に至る学習を展開していく必要がある。自分の思いや考えの見つめ直しと他とのかかわりの連続によって、子どもの思考力・判断力・表現力が育むための具体的学習活動を探っていく。



資料2 かかわりと思考力・判断力・表現力

(2) 話し合い・聞き合いの活動が思考力・判断力・表現力を育てるとは

である・つながる・うまれるとは、話し合い・聞き合いの活動が思考力・判断力・表現力を育成するための条件である。

子どもはかかわりを通してであり、かかわりを通してつながり、かかわりを通してうまれる。

話し合い・聞き合う活動を通して、子どもは仲間の思いや考えを知り、自分のそれまでの思いや考えとくらべ、思いや考えを見つめ直し新たな思いや考え

に気づいていく。

私たちはこれらの活動の連続が、子どもの思考力・判断力・表現力を育てていくと考えているのである。

条件とは、話し合い・聞き合いの活動が思考力・判断力・表現力を育むために教師が講じる手立ての根拠となる考え方である。学習活動の中で子どもの力をいかに高めていくか、そのための効果的な話し合い・聞き合いの活動とは、日常的な実践を通して明らかにしていくことにしたのである。

【構造図】

